

2016年(平成28年)8月31日(水) 第8回 例会 (通算2714回)



人類に
奉仕する
ロータリー

Weekly Report No.2599

Rotary International District2580

石垣ロータリークラブ



地区ガバナー：上山 昭治氏

RI会長：ジョン・F・ジャーム

「出会いを大切に」

ロータリーレート \$1=¥102

石垣ロータリークラブ55年のあゆみ

1969～1970年度



九代会長 西里 松太郎

副会長	山森 正治	幹事	上原 秀夫
副幹事	石垣 信著	会計	登野城 安敬
会場監督	定歳 実勇	クラブ奉仕	
社会奉仕	奥平 広一	職業奉仕	稲福 清彦
国際奉仕	山川 実		

- 石垣小公園野球場施設の拡充(ブロック1コ運動)
- 米国留学生(喜友名進君、新盛ケイコさん、安室瑛枝さん)を例会にご招待し激励する。

《社会情勢》

- 1970年・尖閣列島国際問題化
- ・過疎現象深刻に(5万台から4万4千人に)
 - ・西表島の浦内橋開通
 - ・地方庁長の身分が一般職に格下げ、名称も八重山支庁に変わった
 - ・戦後初の革新市長が誕生(桃原用永氏)
 - ・新川小学校開校

【RIテーマ】

REVIEW and RENEW

再検討し 刷新しよう!



1969～70年度 RI会長
ジェームス F コンウエイ
(米国・ロックビル・センターRC)

会 長	： 前木 繁孝	副 会 長	： 大浜 一郎	幹 事	： 前原 博一
副 幹 事	： 宮城 早人	SAA・出席	： 遠藤 正夫	情報・会報	： 宮良 薫

例会日 水曜日 12:30～13:30
 例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311
 事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917
 URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>
 E-mail ishiroty@ninus.ocn.ne.jp

— . . . — 第2713回 2016年8月24日(水) 例会報告 — . . . —

- 司会進行： 遠藤 正夫
- ロータリーソング： えんどうの花・四つのテスト
- ソングリーダー： 我那覇 宗広
- メイクアップ： 小底 厚子・玉城 守雄
- 出席報告

会員総数 41名 出席義務会員 40名
 出席数 27名 欠席数 13名
 出席率 67.50%(8月通算出席率 65.00%)

 **本日のここにこ**

	小 計	累 計
BOX	¥3,000	¥34,000
コイン	¥4,552	¥39,431
合 計		¥73,431

- 皆様、お久しぶりです。本日の会員卓話の大浜一郎さん、宜しくお願ひ致します。(前木 繁孝)
- お盆が無事終わりました。ホッとしております。
(小林 昌道)
- 10/13～16 台湾周年事業締め切り間近です。申し込みはお早目に！
(大浜 勇人)

会長挨拶：前木 繁孝



1週間空けての久々のロータリー例会ですが、ずいぶん長く感じたのは私だけでしょうか。本当に皆様のお顔を見るのが久しぶりだなと感じております。

お盆休みもありました。私はお盆休み、ちょうどお客様がいらして、アンガマを見せてくれという話になり、新聞を開いたら2日目の午後8時から大浜一郎宅でアンガマがあるというのを目にし、即電話しました。「庭先でいいから見させてほしい」とお願いしたところ、どうぞと言って頂きまして、お客様2人を連れて行って参りました。既に庭、門の前にたくさんの見物客が訪れていて、その中をくぐって家の中へ入らせて頂き、我々だけはエアコンの中で、久しぶりにアンガマを堪能するこ

とが出来ました。お客様も本当に喜んで、僕に感謝をして帰りました。私は一郎さんにここでお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。郷土の芸能の素晴らしいを改めて感じた所です。

本日は、その大浜一郎さんが先月の30日に来島された李登輝元総統の、ほとんどの段どりからお世話をされたと聞いております。その時の状況やそして31日行われた講演会、そしてレセプションの様子など織り交ぜてお話して頂ければと思います。早速ですが大浜一郎さんをお願いしまして、残りの時間を有意義に過ごしたいと思います。よろしくお願ひ致します。

委員会・会員からの報告

◇大浜 勇人会員

10月13日から16日までの台湾台東東RCの周年事業及び大同RCへのメイクアップへの旅行の申し込み締め切りが今月末という事で、今の所どなたも申し込みがないという事で心配しておりますのでぜひよろしくお願ひ申し上げます。

会員卓話：大浜 一郎氏



～李登輝元総統の石垣訪問～



先月30日から8月3日まで、台湾の李登輝元総統が、初めて石垣島に来島されました。沖縄は2回目の訪問になります。多くのRC会員の皆様にも講演会、レセプションにもご参加頂いた事を、改めてお礼を申し上げます。

まず李元総統が来島するに至った経緯は、今年の3月末頃に中山市長と食事をする機会があり、その際に過日、全国青年市長会で市長と同年で全国青年市長会の会長である埼玉県本庄市の吉田市長と全国青年市長会で何か企画をしたいという

話になったようで、昨年は李元総統が国会議員の集まりで講演をしているので、今回は地方から何かを発信するという意味において、再度李登輝元総統を日本へご招待できないかという話になり、ついでには今年度総会が開催される鎌倉へ招聘は可能かと李登輝氏のオフィスへオファーをしたところ、李元総統も 93 歳のご高齢で、更に昨年末に軽い脳梗塞を起こされたこともあり、体調を鑑みて遠方への旅程は難しいという事になったようです。

中山市長から私に「全国青年市長会としてのメインの催しとして、李登輝元総統を石垣への招聘は可能だろうか?」というお話があり、次期全国青年市長会会長に内定していることもお聞きしていましたので、石垣で李元総統の講演会が実現できるのであれば、市長にとっても意義あることであるし、台北石垣の直行便なら 40 分程度旅程であり、病後の身体へのご負担が軽減できるのではないかとこの思いから、食事の席から石垣 RC と友好クラブである台北大同 RC の李明峻氏に電話をして、李元総統を石垣島へ招聘したい旨の経緯とそのアレンジを依頼したところ、早々にその方向での関係者とのアレンジが整い、5 月 2 日に台北の李元総統ご自宅において全国青年市長会吉田会長、中山市長、私と他数名で面談することになりました。

面談当日の李元総統はとてもお元気で約 1 時間近く日本語で様々なお話をして頂き、そして私たちの招聘依頼について「是非石垣島へ行きましょ」と快諾頂きました。

私は「よかった。李登輝先生が石垣島へ本当に来島されるのだ」という感極まる気持ちと同時に、その受け入れの難度の高さが容易に想像できたことと、来島される時期が豊年祭行事と重なること、そして何より夏休み時期のトップシーズンの週末ということもあり、聴講者の動員、施設アレンジ、宿泊確保など諸々の段取りをどうしたものかと心配していたのも事実でした。

大まかな仮日程を調整していく中、中山市長から八重山経済人会議で本事業の事務局運営をお願いしたいという依頼をうけ、今回の事業の主催者委員会として「李登輝先生沖縄県石垣市招聘事業実行委員会」を立ち上げ、八重山経済人会議は後援する組織として事務局の作業を開始しました。

いうまでもなく、この事業は単に石垣島の島内のイベントという枠をはるかに超えたものであり、日本全国、海外からの参加者も対象であること、また全国青年市長会吉田会長が招聘事業の代表世話人を務められる関係上、全国各地の市長、県、市町村議員の皆さん大勢参加されることが見込まれていました。最も重要な調整事項は李登輝先生という VIP が石垣島に直接来島するということから、中華航空、空港バンドリング会社、関係省庁との調整、緊急時の医療支援として八重山病院への協力依頼、更に警備関係においては、沖縄県警、八重山警察署警備課の担当者、台湾から李元総統を警護する国家安全局の SP 関係者との綿密な打ち合わせ等は緻密な積み重ね作業であり、使用する各施設のチェックから、車輛配車計画、分単位のタイムスケジュールなど、全ての時間管理を整える必要がありました。

また今回の来島に際し、李元総統が重視している研究対象である亜熱帯地域での上質な和牛生産について、セミナーを依頼している JA 石垣牛肥育部会の皆さんとの打ち合わせ、琉球華僑総会八重山分会との歓迎式等の打ち合わせの他、講演会、歓迎レセプション申し込みの受け付け名簿管理、会議次第、進行、各種事業における席順の確定など、それらに関連する詳細な資料をまとめ、分厚い運営マニュアルを作成し周知徹底しなければなりませんでした。

そして、迎えた 7 月 30 日、当日は天候も良く、李元総統を乗せた航空機が予定通り台北から石垣島へ到着されました。お元気な姿で石垣島の地を訪れた李元総統ご一行は、最初の訪問先である名蔵を訪れ、ダムの傍らに建立された「台湾農業者入植頭領碑」で執り行われた歓迎式に出席されました。この歓迎式には台湾から入植された初代の方から今では 5 世までになったという赤ちゃんまで、多くの皆さまにお集まりいただきました。

李元総統はご挨拶で入植時のご苦労と、石垣島での農業発展へ多大な功績をなした歴史に触れ、「これまでの入植された皆さまのご苦労と、こうして石垣島の皆さまと入植者がともに生きていることに心から感謝する」との趣旨の感動的なお言葉をいただき、目頭が熱くなりました。

この歓迎式にはかつての民進党政権時に行政院長を務められ、現駐日代表である謝長挺氏も出席されましたが、謝長挺氏は石垣 RC と友好 RC である台北大同 RC のメンバーであり、私も台北で数回お会いしたこともあり、その縁を感じました。

その晩は石垣市長主催晩餐会が開催され、日本全国、海外からも多くの皆さまが参加され和やかな宴ができました。

7月31日は主要事業である講演会と歓迎レセプションが行われました。当日は豊年祭の真つただ中という事もあり、地元の講演会参加者が少ないのではないかと心配していましたが、講演会の開演時間が迫るにつれて当日の参加者も相当数あり、事前参加登録はインターネットからの申し込みが大半でしたので、参加者は当初は350名程度を予想していましたが、しかし実際には450名を越す参加者があり会場での椅子が足りなくなり、着座できない参加者も多くいらっしゃいました。

講演会へ参加された方はそのセキュリティの厳重さに驚かれたと思いますが、入場受付の際に金属探知機が2台設置されセキュリティーチェックを受けることが必至とされ、厳重な安全対策がとられました。これらは沖縄県警、八重山警察署の皆さまの多大なご協力によるものであり心から感謝申し上げます。

講演会の司会進行は全国から参加された市議の皆さまが担当されたことから、この講演会が全国レベルのものであることを改めて感じた瞬間がありました。講演のテーマは「地方から発信する日台交流の深化・石垣島の歴史発展から提言する日台交流のモデル」で講演が行われました。

講演の趣旨は、戦前からパイナップルや水牛などの導入を通して、農業生産技術を駆使し石垣島の農業発展に貢献した台湾からの入植者の苦労や努力を称え、「台湾の人々と融和を図り、今日まで共存共栄してきた」と石垣島の人々に感謝し、台湾と石垣島との歴史が現在の日台交流を深化させるモデルであろうと位置づけ、内閣官房参与をされている浜田宏一さんとの共著で書かれた本で「日台IoT同盟 - 第四次産業革命は東アジアで爆発する -」を土台として、これからの時代はあらゆる機器をインターネットにつなぐIoTの分野での協力体制

が不可欠であり、研究開発は日本が担い、生産技術を持つ台湾が製造を担う経済システムを提唱しました。互いが協力し合えば、日本の経済を再び成長路線に乗せることは可能であり台湾はIoT生産拠点になれる。そして日本と台湾は運命共同体であり、更なる密接な協力関係が第4次産業革命を創造すると締めくくりました。

講演会終了後2時間のインターバルの後、歓迎レセプションが開催されました。このレセプションも当初130名程度を予想していましたが、最終的には約200名の参加者がありました。

8月1日、午前中に実はハプニングが起きました。私達は車輛配車担当としてホテルで待機していたのですが、マニュアルでは李元総統が移動する際には事前に連絡が受け、車列を整えておくことでした。しかし朝食を済ませた李元総統がホテル敷地内を散歩した後にお孫さん達と一緒に川平に行ってしまう、連絡を受け私達は慌てて車列を組み川平へ向かうはめになりました。思うに李登輝元総統もずっとホテル内でお過ごしでしたから、気晴らしがしたかったかもしれませんし、少しゆったりとした時間を過ごされたかったのだと思います。

その晩は蓬莱閣で開催された琉球華僑総会八重山分会主催の歓迎懇親会に李元総統はお元気に参加されました。地元の郷土芸能、台湾の民族舞踊など様々な余興が披露され終始ご機嫌なご様子でした。特に印象残ったことは、プログラムには無いご挨拶をされたことでした。李登輝元総統の手にされた湯呑に「ありがとうの心、おかげさまの心、感謝の心、奉仕の心、自ら進んでやるという心」という道徳的な意味の言葉が記されていたようですが、李元総統は湯呑に記された言葉を引用して「このような心を私達は日本から学んだ。入植してこられた皆さんも石垣島でこの心を学んだ。このような心こそ最も大切なものです。」というご挨拶を噛みしめるようにお話しされた姿に感銘を受けました。

8月2日は、午後までスケジュールを入れずにゆったりとした時間を過ごされていました。当日の朝、秘書から連絡があり、李元総統と朝食をご一緒にということで、秘書の皆さまと李登輝基金

会顧問で江口克彦元参議院議員とともに李登輝元総統の部屋でひと時を過ごしました。その際も戦前戦後の日本の教育の話や昨夜の歓迎会でお話しされた「心の在り方」への思いを話されていました。日本の歴史についても特に幕末から明治、大正、昭和、そして現在までにおける、その時々​​の史実と世界情勢とのかかわりへのお話は大変勉強になりました。

李元総統は京都帝国大学農学部で農業経済学を学び、後に米国コーネル大学で農業経済学博士号を取得されたことから農業について深く精通されています。今回の来島に関して非常に興味を持たれていたのが、石垣島のような亜熱帯地方でなぜ石垣牛のようなブランド和牛が飼育できるのか、北海道や東北の方での和牛生産の事は知っていたが、気候が違う環境で、どういう異なる肥育技術を用いて石垣島でブランド化の成功ができたのかという研究課題を持っていたようです。もちろん、石垣島のブランド牛を食してみたいことは当然として、生産現場、取り組みを知りたいという強い希望があり、JA 肥育部会のご協力を頂いて午後 18 時より李元総統の部屋でセミナーの開催をしました。予定の時間を 30 分超過し、1 時間にわたり続いたセミナーの質問タイムには、農業経済博士として李元総統の質問は非常に多岐にわたりました。飼料について、日本各地ブランド牛との相違点など実に細かな質問をされていました。実は台湾では肥育牛生産が乏しく増大する牛肉市場需要に対してはオーストラリアを主なる輸入先としていること、現在口蹄疫の問題から日本からの牛肉は輸入禁止措置が取られていますが、現在台湾では限定的な解除措置が検討されており、輸入先として限定的に石垣島の可能性はあるか、または将来石垣島の肥育技術と提携して台湾での肥育生産の可能はあるかなどの課題について、興味をもたれているようでした。

その夜は JA 肥育部会との懇親会が開催されました。JA 肥育部会の皆さんの多大なご尽力により高級部位が提供され、李登輝元総統ご夫妻をはじめ関係者を含め石垣牛をご賞味いただきました。台湾から来島されたマスコミを含めた関係者は、石垣牛の上質な美味しさに驚き、その様子はすぐ

さま台湾メディアへ配信され、翌日の台湾の新聞紙上で大々的に報じられました。事実、報道後に入港した台湾からのクルーズ船の乗客が焼肉店に多く来店されていたというお話もお聞きし、それなりの効果があったと実感しました。

李元総統に直接お会いして感じた印象は、戦前から日本人として教育を受け、学徒出陣し、高射砲部隊に陸軍少尉として配属され終戦を迎える経歴をもち、先の大戦で戦死された兄が祀られている靖国神社に参拝されるなど、日本人として生きてきた人生があったことの誇りを心身に刻まれ、昔気質の精神を持ち、非常に自らに厳しい性格の反面、優しさが溢れるお人柄でした。今年 93 歳というご高齢にして非常に頭脳明晰で、常に新しい時代へのアイディアも持ち合わせているまさに哲人でした。

思えば八重山経済人会議が発足した当時、その時は李元総統が台湾史上初めて民選総統として第 9 代総統として就任された時期で、台湾総統選に合わせて中国がミサイル発射軍事演習実施し米国航空母艦 2 隻が台湾海峡へ派遣するなど緊張した情勢の頃でした。97 年に八重山経済人会議のミッションとして台北へ行った際、当時の外交部の方とお会いする機会がありましたが、私が「是非、李登輝総統を沖縄に招聘したいのだから、その可能性はどうだろうか?」と質問するやいなや、融和な雰囲気は消え、眼光鋭く「リップサービスもいい加減にしろ」と怒られた事を懐かしく思い出しました。当時からすれば時代環境は大きく変わり、何度かの民選での選挙も経験した台湾は今や民主的政治が定着し経済的には世界有数の国として躍進しています。

あれから 20 年後、今回の事業を通して李登輝元総統石垣島訪問に際し受け入れの裏方として、積年の思いが叶ったことを心から喜ぶとともに、石垣島の存在が台湾のみならず、メディアを通して世界へ発信されたことで、従来の観光地というイメージだけでなく、日台の絆を象徴する島としても広く認知されることに繋がれば、こんな意義深いことはありません。

改めて、この事業成功のためにご協力いただいた多くの方に心から感謝申し上げます。

～例会風景～



本日は会員卓話、大浜一朗氏でした。



奥平 まゆみ氏
1972年8月20日

お誕生日おめでとう

(公財)ロータリー米山記念奨学会ニュース

★ ハイライトよねやま 197号 ★ 2016年8月12日発行

<::今月のトピックス::>

寄付金速報 — 2016-17 年度もほぼ好調にスタート —

2016-17 年度最初の月となる7月の寄付額は約2億1,200万円、前年度と比べて5.3%減(普通寄付金:2.8%減、特別寄付金:11.7%減)、約1,200万円の減少のスタートとなりました。2007年度以降最高額だった昨年度には及ばなかったものの、好調だった2014年度の寄付額とほぼ同額となりました。寄付者の皆様に厚く御礼申し上げます。日本のロータリーが世界に誇る米山奨学事業の継続と発展のため、今後ともご支援ご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。